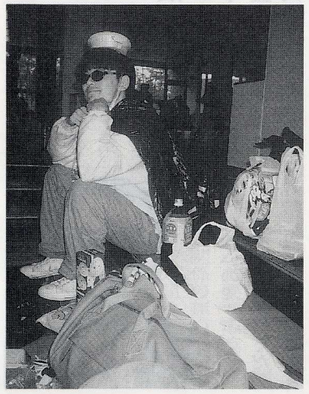
教育環境を活かし、有意義な学生生活を

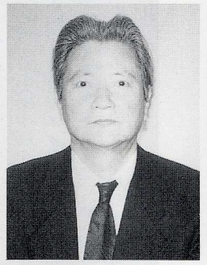
生物生産学部長
三國　英實

新入生の皆さん、入学おめでとう。

生物生産学部の教職員・院生・学生一同、皆さんの入学を心から歓迎する。

生物生産学部では、生物に関する科学的知識を基礎に、生物の有する生産力と機能の有効利用による豊かな地球環境の保全と、食糧生産をはじめ人類の生活向上に貢献できる学生の養成をめざしている。そのためには、広い視野と専門知識を兼ね備えた創造力のある人間形成が求められている。広島大学での教育・研究環境を積極的に活用し、有意義な学生生活を送ってほしい。





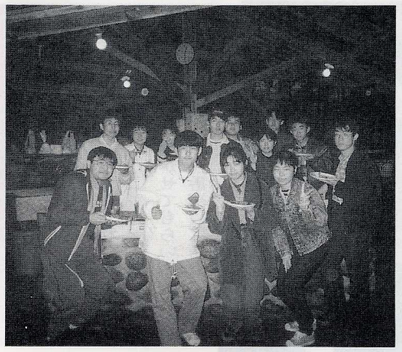
これからは「共生の時代」といわれるように、お互いの立場を理解しあいながら相互に発達していけるような人間関係を、学校・職場・地域、また民族間・国家間においても築いていくことが求められている。さらに、人間の行動が刻々と生物種の消滅をまねいている今日、我々は自然生態系の保全と修復にも責任を持っており、自然と人間との共生も重大な課題となっている。

新入生の皆さんが大学を卒業する時期は二〇〇〇年の三月で、二十一世紀に入っている。二十一世紀に向けて私たちはどのような生き方をしたら良いか、一緒に考えていこうではないか。

（みくに・ひでみ）

オリキャンに参加しよう

生物生産学部学生
安實　靖司



広大入学おめでとう!!　やっと受験勉強から解放されてホッとしていることだろう。同時に、新たに始まる大学生活への期待と不安で頭が一杯ではないだろうか？

さて、これから始まる大学生活をいかに有意義に過ごすかは、みなさんがいかにうまく友だちを作っていくかにかかっているのだ。

この広島に知り合いもなく単身乗り込んで来た勇気あるあなたに、とりあえずどうしたら友だちができるだろうか。お困りであろう。そんなあなたに朗報!!　この四月には、オリエンテーションキャンプ、略してオリキャンが行われるのである。

オリキャンて何？　というあなたに…。これに行けば友だちはもちろんのこと、上級生さらには教授と知り合いになれるのである。何だそんなこと、と思っている君、甘いよ。この先人との知り合いは、何の世界においても重要なのである。例えば、単位取得の楽な授業を教えてもらったり、過去問がもらえたり、西条や広島の「耳より」情報が聞けたり、はたまた教授に気に入られたりするのである!!

ここまで読んで、多くの人はオリキャンに興味をそそられたのではなかろうか。

このオリキャンは、中学や高校で体験してきた野外活動とは大きく違い、そこには自由がある!!　中高校ではキャンプの実行委員が先生たちであったため、どうしても束縛が多かった。このオリキャンの委員会は学生主体であるため、かなり自由に楽しめるように行われている。しかし、好き勝手をしていいという意味ではなく、責任がともなう行動なら自由にどうぞ、ということである。これが大学なのである。

オリキャン当日のイベントは〝ギャンプファイヤー〟や〝何でもダービー〟などで、大学生活の良い思い出になる企画が目白押しである。ここまで読むと、「お前ら大学生は遊んでばっかりか!!」と思うかもしれない。大学では自分しか自分を管理する人はいない。だから、やることをちゃんとやっているなら、遊ばなきゃ損だ、と私は思う。それでは、楽しく有意義な学校生活を送ってちょうだい。オリキャンに来てね!!　（あんじつ・やすし）

逞しく行動しよう

大学院国際協力研究科長
山下　彰一

入学おめでとう

本研究科は、アジアを中心とした発展途上国の開発に貢献できる人材を育成することを目的として、二年前に設立された。それぞれの専門分野に加えて、国際交渉能力をもった実践的な人づくりが目的である。

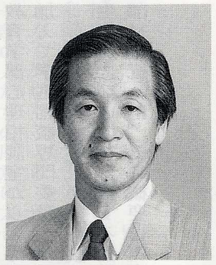
国際交渉能力を身につけるためには、一つには、しっかりした専門をもつことである。専門的な知識と経験がなければ話にならない。

第二は、語学力である。本研究科は、英語だけで学位が取れるよう、英語による授業が行われている。アジア各国からの留学生も多い。ここで英語の力をつけて、修士課程修了までに全員がTOEFL（外国人のための英語テスト）五五〇点以上をとってほしい。日頃からこうした努力を続けておれば、国際機関など海外で仕事をすることが容易になる。

留学生と一緒に勉強し、親しい友人になっておくことのメリットは大きい。私のアメリカ時代のクラスメイトの一人は、マレーシアに帰り、国立大学の副学長を務めた後、いまは国会議員になっている。タイからの留学生は、チュラロンコン大学経済学部長を経て、大蔵大臣をやった。

大臣や政治家になることをとやかくいうわけではないが、学生時代に一緒に苦労した仲間は、生涯を通じての友だちになれる。うちの留学生が帰国した後も、君たちとの友だち付き合いは続くであろうし、将来仕事上で助けてくれる場面が必ず出てくると思う。いまから仲良くなっておいたらどうだろうか。とにかく逞しく行動してほしい。

（やました・しょういち）



一緒にお酒でも・・・

国際協力研究科学生
平野　靖雄

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

皆様は国際協力研究科の第三期生ということになります。つまり我が研究科も今年度でやっと三年目を迎えるわけで、まだ研究科の校舎が建設されていない（今年度着工予定）ことをはじめ、始動期にあるといえます。皆さん三期生は、おそらく、来年度に新校舎に入る初めての学年となりますので、我が研究科の新たな伝統を形づくる重要な役割を担っているといえます。

この国際協力研究科の最大のメリットは、学生の構成が、専門分野・国籍・年齢・経歴において実に多様であることです。それぞれの専攻する分野から国際協力という同じテーマについて研究を深めるという、共通の目的を持った仲間です。

現在国際協力・国際開発に際して、一つの視点からだけでは解決できない問題が表面化していることを考えてみても、それぞれの専門性を深めると同時に、多角的な見方・考え方を養う必要性がきわめて大きいことがわかります。そのためにも横のつながり、縦のつながりを強め、互いに情報交換しあうことは、将来の国際協力を担う私たちにとって非常に重要なことであると思います。

現時点では、私たちはばらばらに分散しており、なかなか他のコースの人と交流することが難しい状況におかれていますが、新校舎ができれば、皆さんで国際協力研究科のよりよい輪を形成してくれるものと期待しています。

などなど、カタイことを申しましたが、要するにこの一年、研究のかたわら、時にはみんなで一緒にお酒でも飲みに行きましょう、と言いたかったわけです。どうぞよろしくお願いいたします。

（ひらの・やすお）

Welcome to IDEC

IDECスポーツ大会
（1995年6月，西体育館前にて。前列左端が平野君，一人おいて佐々木さん）

ようこそ、国際協力研究科へ

国際協力研究科学生
佐々木　文

おめでとうございます。ようこそ、国際協力研究科へ!!

いまの皆様は、どのような気持ちや志を抱いておられますか？

私たち国際協力研究科生は、入学に際し、一人一人全く異なる気持ちや志を抱いてきました。

しかし今までに、晴天の気持ちを満面の笑顔で表現したり、一つの目標を直視して突き進んだり、ドカンとはじけて楽しんだり、頭のなかにクモの巣をはったり、何十億もの活字が時速五〇〇キロで飛び交って頭が痛くなったり、心のなかにどんよりと雨雲がかかったり、部屋のベットに身を投げたきり起き上がりたくなくなったり、と私たちは、同様の、楽しくそして苦い経験をしてきました。

その経験から私たちは、お互いに笑顔を交わし、意見をぶつけ合い、悩みを打ち明け、遊ぶときは遊びに徹して、結局研究をすすめていくこと、国際協力研究科生として頑張りつづけることを拒否せず、いまここにおります。

どんなに異なる気持ちや志を抱いていても、みんな同様の壁にぶつかります。

疲れたとき、辛いときは周りを見回してください。一人にならないでください。無理をしないでください。泣いても、笑っても、怒っても、喜んでも、哀しんでも、楽しんでも、あっという間の大学院生活には変わりないから、笑顔でいきましょう！　楽しいことたくさんしましょう！

楽しい時を共にして、辛い時を共にして、壁を打ち崩し、出てきそうな壁を踏みつけていきましょう！

（ささき・あや）

IDECは国際協力研究所（Graduate School for International Development and Cooperation）の略称です。